

様式2(指定管理者施設)

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成21年度事業分)

1. 施設の概要

施設名	山梨県立八ヶ岳牧場	所管課	畜産課
所在地	本場: 山梨県北杜市小淵沢町大平10,016 天女山分場: 山梨県北杜市大泉町西井出8,240	設置年月日 (改築年月日等)	昭和43年4月1日
管理方式	指定管理者(財団法人山梨県子牛育成協会、平成18年4月1日～平成23年3月31日)		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立八ヶ岳牧場の設置及び管理条例 山梨県立八ヶ岳牧場の設置及び管理条例施行規則		
設置目的	I 受託放牧 本県畜産振興に寄与するため、農家家畜を受託放牧すること。 II 県有肉用牛の改良増殖 本県肉用牛生産を振興するため、県有牛を改良増殖し、繁殖素牛・肥育素牛を供給すること。		
主な施設内容 (定員等)	事務所、看視舎、分娩牛舎、追込牛舎、ほ育牛舎、育成牛舎、乾草庫、たい肥舎、たい肥処理棟、スラリートank、農機具庫等		
主な業務内容	○利用の承認に関する業務 ○施設及び設備器具の維持保全に関する業務 ○家畜の飼養管理及び改良増殖に関する業務 ○牧草の栽培に関する業務 ○家畜排せつ物のたい肥化に関する業務		

2. 類似施設・近隣施設

名称・施設内容・ 利用状況等	なし
-------------------	----

3. 利用状況

単位: 人、%

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度 (目標値)
受託頭数	受託頭数	117,516	109,102	99,353	
	受託頭数合計	117,516	109,102	99,353	
	目標値	120,000	120,000	120,000	120,000
	目標値設定の考え方	牧場の施設能力の最大値である年間延べ頭数で設定。	牧場の施設能力の最大値である年間延べ頭数で設定。	牧場の施設能力の最大値である年間延べ頭数で設定。	牧場の施設能力の最大値である年間延べ頭数で設定。
	対19年度比	100.0%	92.8%	84.5%	102.1%

4. 収支状況

単位:円、%

		平成20年度	平成21年度 (計画値)	平成21年度 (実績値)	平成22年度 (計画値)
収入	施設利用料	41,102,030	42,064,000	37,315,895	42,064,000
	指定管理者委託料	189,916,361	190,988,684	190,988,684	190,367,200
	その他	0	0	0	4,081,658
	収入合計(A)	231,018,391	233,052,684	228,304,579	236,512,858
支出	人件費	145,043,696	154,093,725	140,419,025	145,242,149
	県への納付金	0	0	0	0
	管理運営費	87,337,831	78,958,959	87,895,010	91,270,709
	(うち外部委託費)(B)		2,245,865	1,682,986	2,245,865
	支出合計(C)	232,381,527	233,052,684	228,314,035	236,512,858
収支差額(A-C)		-1,363,136	0	-9,456	0
外部委託比率(B÷C)		0.0%	1.0%	0.7%	0.9%
利用者一人当りの経費		1,741	1,592	1,922	1,586

5. 利用者満足度

実施方法等	実施時期:平成22年5月 実施方法:平成21年度の預託利用者及び売却牛と堆肥の購入者へのアンケート(郵送) 回答数:37人
-------	---

単位:%

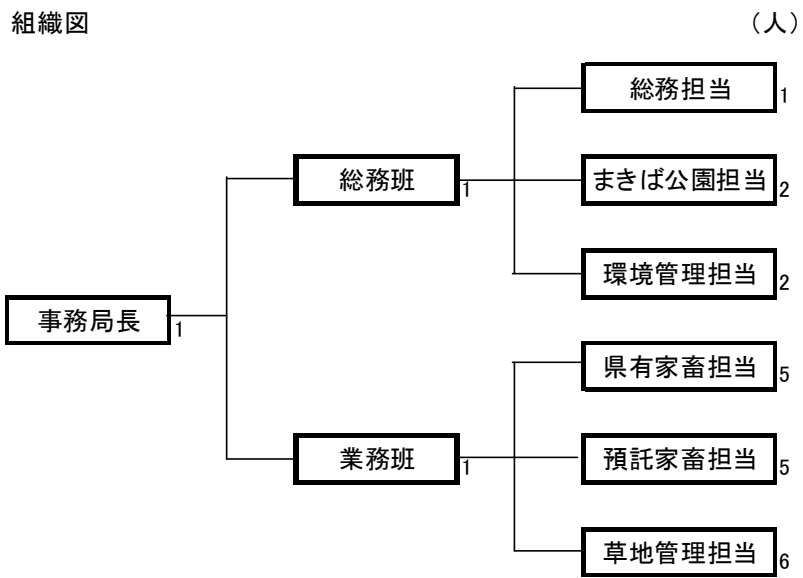
調査項目	満足・十分	普通・ どちらでもない	不満足・ 不十分	不明・ わからない
家畜の受託に対する満足度	100.0%	0.0%	0.0%	—
県有家畜の売却に対する満足度	95.7%	0.0%	4.3%	—
堆肥の売却に対する満足度	90.8%	7.5%	1.7%	—
総合評価	89.5%	10.5%	0.0%	—

利用者の意見	○乳頭腫の発生により、搾乳に影響あり。
利用者の意見への対応	○懸案事項である乳頭腫は関係機関の協力のもとに原因究明・発生予防に取り組んでいる。

6. 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	適正に実施し、車両・農機具の保安全管理や保安・警備に努めるとともに、車両等の修理は出来る限り自前で対応し修繕費用の節約に努めた。	引き続き、適切な管理を徹底し、修繕等が必要な箇所については、予算の範囲内で補修工事等を実施されたい。また、家畜、従事者及び来場者に事故等が発生することがないよう、保安・警備を徹底されたい。
運營業務	優良種雄牛の交配に努め、生産子牛を計画以上に売却した。 家畜の受託頭数は計画の83%であり、今後新規利用者の開拓に努める。 牧草の生産量が激減しており、草地更新及び獣害対策が必要である。 農家巡回調査指導、改良増殖業務、家畜排せつ物処理業務を適正に実施した。	引き続き、県有家畜及び農家有家畜の適正な飼養管理に努めるとともに、農家巡回調査指導の充実を図られたい。 また、年間目標受託頭数の達成に向け、新規利用者開拓に努力されたい。 各種事業の活用又は牧場直営により、牧草地の単収向上を図っていただきたい。
自主事業		
利用状況	県内の飼養戸数・頭数の減少傾向の中で、冬期受入頭数の拡大・中途入牧の積極的な受入等、受託の推進を図るも、計画頭数の確保が出来なかった。 引き続き、積極的にPR活動を行い、新規利用者の開拓等により、利用頭数の確保に努める。 今後、頭数の減少に歯止めがかからなければ、新たな受託形態の検討も必要である。	20年度実績に比べ、利用頭数が減少している。 引き続き積極的なPR活動を行い、夏期の利用頭数増加を図り、年間受託家畜利用延べ目標頭数を確保するよう努めること。
収支状況	利用料収入が減少している。安定経営のためにも引き続き利用料確保に努める。消耗品・原材料等の物件費の増加を、職員の若返りに伴う人件費の削減等で補充しており、支出実績は計画内であった。 今後も引き続きコスト削減を図り安定経営に努める。	利用料金収入は目標額を下回ったが、生産関連資材等の高騰する中で、支出削減を図ることにより収支バランスが取れており、安定した経営であった。
利用者満足度	現状業務には、多くの項目で高い満足度が得られているが、現状に甘んじる事なく、乳頭腫対策・受胎率の向上・優良素牛の供給等々の要望に応えるよう、善良管理と、さらなる技術力の向上に努め、満足度をより一層高めていく。	年間受託家畜利用延べ目標頭数を確保するよう努めること。 引き続き、需要者(農家)の要望を最大限取り入れながら和牛と堆肥の生産及び売却に努めるとともに、売却予定牛に関する正確かつ迅速な情報提供に努めること。
運営目標の達成状況	<p>○年間利用頭数は目標値の83%となっており、目標は概ね達成されている。 今後、夏期の利用頭数を増加させることにより、年間延べ利用頭数の向上が可能である。 ○県有牛の育成状況は良好であり、売却頭数は目標の年間130頭を超えた。</p>	
施設所管課による総合的な評価及び指導事項	<p>I 履行確認 各種業務は適正に実施されていた。</p> <p>II サービスの質の評価 ○年間受託家畜利用延べ目標頭数を確保するよう努めること。 ○引き続き、需要者(農家)の要望を最大限取り入れながら和牛と堆肥の生産及び売却に努めるとともに、売却予定牛に関する正確かつ迅速な情報提供に努めること。</p> <p>III 利用料金収入は目標額を下回ったが、支出削減を図ることにより収支バランスが取れており、安定した経営であった。</p>	
施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況	<p>○夏期の利用頭数を増加させることにより、年間利用延べ頭数の向上に努める。 方策◆農家への「ハヶ岳牧場利用のメリット」の周知・PRの徹底、新規利用農家の開拓掘り起こし。 ◆受精卵移植等の繁殖に対するサービス強化、利用メリットの向上。 ◆入退牧牛の運搬体制整備。 ◆意識調査により、利用者ニーズを把握し、次年度に反映させる。 ○分娩間隔の短縮等により、売却頭数増加を図る。 方策◆発育向上による初産月齢の短縮や、受胎率の向上に努め生産性の向上を図る。 ○育成時体重の全国年平均値の更新にあわせ向上させる。 方策◆育種価を利用した適切な計画交配、受精卵移植等の繁殖技術の活用により改良の効率化を図る。</p>	

7. 管理体制(組織図)



職員数

事務職	技術職	技労職	合計
2	6	15	23